校種：小学校　　対象学年：1年　　人権課題：生命の尊重

「いのち」ってなんだろう？

**１　教材について**

「いのち」とは何か。これは、この地球に生きる人類にとって尽きることのない大きな命題である。と同時に、わたしたちが社会生活をしていく上で、最も基本的土台となる認識でもある。

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「特別の教科　道徳編」には、内容項目「19　生命の尊さ」の中で「生命」について、以下のように示されている。

ここでいう生命は，連続性や有限性を有する生物的・身体的生命，さらに は人間の力を超えた畏敬されるべき生命として捉えている。そうした生命のもつ 侵し難い尊さが認識されることにより，生命はかけがえのない大切なものであって，決して軽々しく扱われてはならないとする態度が育まれるのである。

道徳では、この生命の連続性や有限性などについて、小学校の発達段階に応じ児童の考えを深めていくことを求めている。

　また、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「生活編」には、その目標として「具体的な活動や体験を通して『身近な生活に関する見方・考え方』を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する」と示されている。そして、「いのち」については、内容コ「成長への喜び」として位置づけられている。

小学校に入学してきたばかりの1年生にとって、この「いのち」についての認識はさまざまであると思われる。しかし、「いのち」についての認識はすべての生活・教育活動の土台となるものであり、1年生では1年生なりの認識（見方・考え方）を育てることが重要である。また、人権教育においてもそれは不可欠な土台である。そこで、本教材では「いのち」の大切さ・有限性・連続性について児童に投げかけ、それをもとに「いのち」について話し合う活動を行うことを通して、「いのち」についての認識（見方・考え方）の土台を育んでいきたいと考えている。

**２　実践のポイント**

　〇　本教材は、自作教材であり、「『いのち』はどうやってうまれてくるの？（大切さ）」「『いのち』はどうしておわるの？（有限性）」「わたしたちの『いのち』はどこからきたの？（連続性）」という3つの問いかけに対して、挿絵を使いながら読み聞かせをするという形にしている。実施する際には、問いかけごとに児童のつぶやきや疑問を拾い上げながら話し合ったり、教師が投げかけた問いに対し互いの考えを伝え合ったりすることを通して、「教える」のではなく自然な形で児童の気づきを育みたいと考えている。生活科として実践する場合には、ここでの児童のつぶやきや疑問をきっかけに、聞き取り（インタビュー）→まとめ・制作→発表という活動に発展させていくことも有効であると考える。

　○　「いのち」についての児童の経験は、一人ひとり異なるはずである。具体的には、複雑な家庭環境にある児童、身近な人の「死」を体験している児童などが想定される。また、本教材の中にもあるように「結婚」や「子育て」は個々人が判断すべきことである。実践にあたっては、児童の生活実態や体験を踏まえ、また特定の価値観を教師が押し付けることのないように配慮する必要がある。

**３　教科等における活用例**

**〇　生活科**

　　　　コ「成長への喜び」

**〇　道徳科**

「D(17)生命の尊さ」

**４　実践を通して育みたい資質・能力**

|  |  |
| --- | --- |
| 知識的側面 | ・「いのち」の大切さ、有限性、連続性について感じる。  ・結婚や子育てはそれぞれの選択であり、正解や強制ではないことを知る。 |
| 価値的・  態度的側面 | ・互いの体験や考えを認め、多様な意見があることを肯定的に受け止めることができる。  ・受容的な雰囲気の中で、自分の気付きや考え・疑問をつぶやいたり、言葉や文字、絵、ジェスチャーなどで表現したりすることができる。 |
| 技能的側面 | ・自他の「いのち」について関心を持ち、もっと知りたい・調べてみたいという気持ちを感じる。 |

「いのち」ってなんだろう？

**５　実践する教科等**

　　小学校　第1学年　生活科

**６　本時の目標**

|  |
| --- |
| **自分たちの体験や考えを伝え合いながら、「いのち」についての関心を持ち、見方・考え方を広げる。** |

**７　展開例**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動と主な発問（☆） | 予想される子どもの反応 | 教師の支援・指導 |
| つかむ | **１　「いのち」について考え、関心をもつ。**  ☆「いのち」って、何だろう。みんなは、「いのち」ってどんなものだと思いますか？  ☆これから、「いのち」について３つのお話をしますね。 | ・生きていること？  ・心臓が動く？  ・息をすること？  ・生まれてくる？  ・生き物にはみんなある  よ。 | ○「いのち」について、思い浮かぶことを子どもたちから引き出し、「いのち」について知りたいという気持ちを高める。  ○教材のはじめの部分を読みながら、「いのち」はどうやってうまれるの？、どうしておわるの？どこからきたの？という話をきくことを知らせる。 |
| 考える | **２　「いのち」について考える。**  ☆みんなの「いのち」もこうやって生まれてきたんだね。どう思いましたか？ | ・いのちってすごい。  ・いのちのもとがたくさんあっても、ちょっとしかいのちになれないんだね。  ・うちにも赤ちゃんがうまれたよ。  ・そんなに長く、お母さんのおなかの中にいたんだね。 | ○教材文の「『いのち』はどうやってうまれてくるの？」の部分を読み聞かせ、子どもたちと話し合う。  ○自分たちのいのちは、大切にされて生まれてきたことを感じさせるようにする。 |
| ☆すべての「いのち」には、はじまりとおわりがあるんだね。だから、みんながおわりまで元気に生きられるように、みんなで助け合っていきたいですね。みんなの「いのち」をまもるためにできることあるかな？ | ・事故にあわないように  する。  ・けんかをしないようにする。  ・けがをしないように、気をつける。  ・病気にならないように、手洗いやうがいをするよ。 | ○教材文の「『いのち』はどうしておわるの？」の部分を読み聞かせ、子どもたちと話し合う。  ○「災害」については、台風や大雨、地震などと補足説明をする。  ○子どもたちに死に対する不安を感じさせないように配慮する。 |
| ☆みんなの「いのち」は、ずっとつながっているんだね。みんなのいのちも、これからつながっていくかもしれないね。 | ・いのちは、大昔からつながっているんだね。すごい。  ・だれか一人でもいなかったら、うまれていないんだね。 | ○教材文の「わたしたちの『いのち』はどこからきたの？」の部分を読み聞かせ、子どもたちと話し合う。  ○結婚や子育ては個人の自由であり、特定の価値観を押し付けないように配慮する。（みんなが自分らしく幸せになることが大切であることにふれる。） |
| ☆「いのち」について、もっといろんな人にも聞いてみたいね。聞いてみたいことや聞いてみたい人はいますか。 | ・自分の赤ちゃんの時のことを家族にきいてみたい。  ・あかちゃんがうまれるときのことをもっと知りたい。  ・おなかに赤ちゃんがいるときのことを、お母さんにきいてみたい。 | ○「いのち」のことや自分や友だちが生まれてきたときのこと、いのちをつないでくれたおじいちゃんやおばあちゃんのことなど、「いのち」について知りたいこと、尋ねて見たい人について話し合う。 |
| まとめる | **３　「いのち」について、もっと知りたいという気持ちを高める。**  ☆　みんなが考えてくれたことをもとに、インタビューしたり、調べたりして発表会をしよう。 | ・おもしろそう。  ・「いのち」のこと、もっともっとわかったらいいな。  ・自分の「いのち」のことがわかるかも。  ・友だちや家族の赤ちゃんの時のことも知りたいな。 | ○子どもたちのアイデアを引き出し、それを学習活動につなげていくように工夫する。 |